

2005年12月

お客様各位

マクニカネットワークス株式会社

StorMate RAID NR64 シリーズ補足マニュアルについて

拝啓、StorMate RAID NR64 シリーズをお買い上げいただき誠に有難うございます。

この度、お買い上げいただきましたStorMate RAID NR64 シリーズに於きまして、2005年12月に新システムファームウェアの「システムファームウェア V2.9R24」をリリースし、本バージョンでは新機能が実装されました。

その新機能の内容や設定方法等につきましては、ご購入いただいた際に同梱されているCD-ROM内、あるいは弊社製品サポートページ内の「StorMate RAID NR 64 シリーズ オンラインマニュアル」に記載がございませんので、次頁からの「StorMate RAID NR64 シリーズ補足マニュアル」をご参照くださいますようお願い申し上げます。

(補記)既にStorMate RAID NR64 シリーズをご利用のお客様へ

StorMate RAID NR64 シリーズは、出荷時期によってファームウェアのバージョンが異なる場合がございますので、弊社では最新のファームウェアへのバージョンアップを推奨いたしております。ご使用装置のシステムファームウェアバージョンの確認方法、及び最新ファームウェアのダウンロードにつきましては、弊社製品サポートページ(<http://www.macnica.net/sercomm/support.html>)にてユーザ登録後に、Sercomm サポートページにてご確認いただけますようお願い申し上げます。また、最新ファームウェアでの変更・修正点も併せてSercommサポートページよりご確認ください。

尚、次頁からの「StorMate RAID NR64 シリーズ補足マニュアル」はシステムファームウェアバージョンが「V2.9R24」以上の装置が対象となりますのでご注意ください。

ご不明な点等ございましたら、下記弊社ネットワークサポートセンターまでお問い合わせください。

E-Mail: stormate@cs.macnica.net

以上、今後ともより良い製品のご提供とサービスの向上に努めて参りますので、StorMate RAID NR64 シリーズ及び弊社製品のご愛顧の程、宜しく願い申し上げます。

敬具

STOR MATE RAID NR64 シリーズ補足マニュアル

2005年12月

目次

目次.....	3
第1章 新機能について.....	4
第2章 新機能の設定方法について.....	5
2 - 1 . 認証選択機能.....	5
2 - 2 . Active Directory 認証機能.....	7
2 - 2 - 1 . Active Directory 認証.....	7
2 - 2 - 2 . グループマッピング.....	9
2 - 2 - 3 . グループマッピング編集.....	13
2 - 3 . RAID ブザーコントロール機能.....	15
第3章 Active Directory 認証設定の例.....	17
3 - 1 . 1対1マッピング.....	17
3 - 2 . 1対多マッピング.....	18
3 - 3 . 多対多マッピング.....	19
3 - 4 . マッピングテーブルが変更された場合.....	20

第 1 章 新機能について

本装置はシステムファームウェアバージョン V29R24 から以下の 3 つの機能を実装いたしました。

認証選択機能

本装置は運用中、ローカル認証、NT ドメイン認証、Active Directory 認証の 3 つの認証方式に切り替えることができます。また、認証方式に関わらず常にローカル認証するアカウントを「除外アカウント」として指定することができます。

Active Directory 認証機能

本装置を Active Directory と連携させて、Active Directory 認証することができます。Active Directory でアカウントの追加や、パスワードを一括管理することが可能です。

RAID ブザーコントロール機能

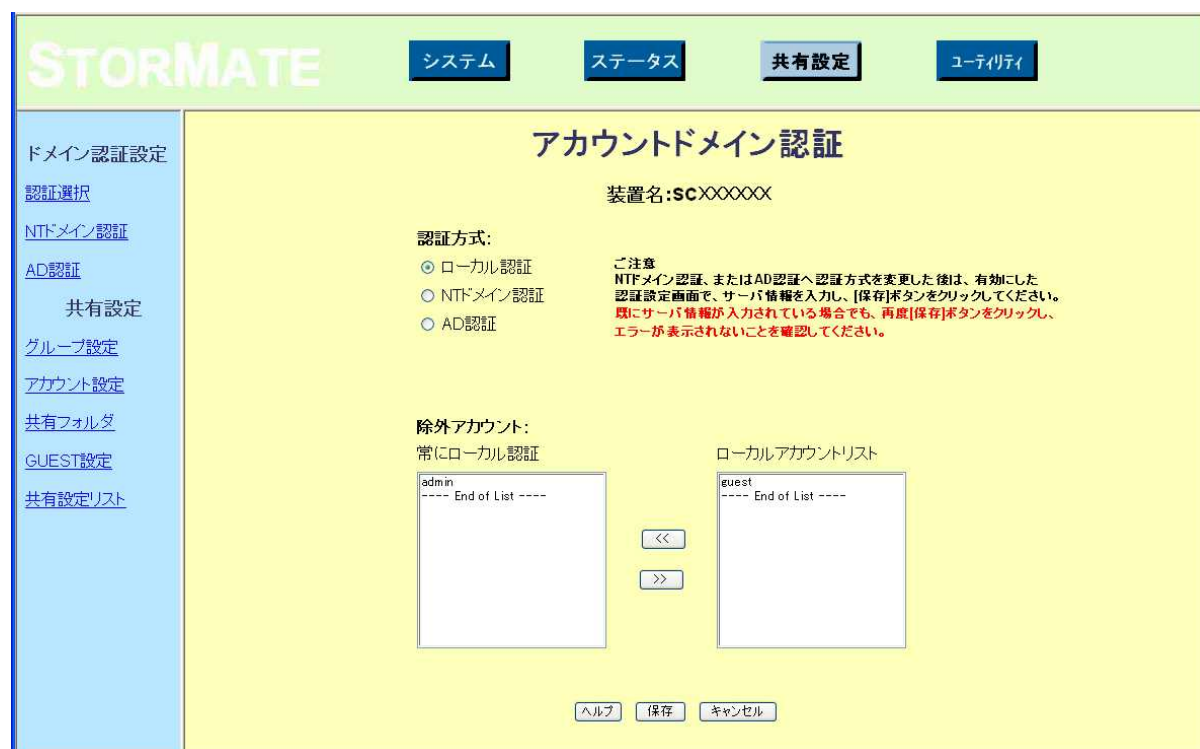
RAID コントローラからブザー音が鳴動した場合、そのブザー音をコントロールすることができます。

第2章 新機能の設定方法について

新機能の設定方法や、内容について説明します。

2 - 1 . 認証選択機能

WebSetup ユーティリティにログイン後、[共有設定]をクリックした画面で設定します。ちなみに画面左の「認証選択」をクリックしても同じ画面です。



認証方式を選択する

本装置はローカル認証、NTドメイン認証、AD (Active Directory) 認証の3つの認証方式に切り替えることができます。本装置を運用する上での使用する認証方式にチェックし、[保存]ボタンをクリックして設定を有効にします。

ローカル認証: 本装置に手動で直接設定した情報でアカウント認証を管理する認証方式です。

NTドメイン認証: NTドメインコントローラでアカウント認証を管理する認証方式です。

AD認証: Active Directoryでアカウント認証を管理する認証方式です。

ボタン操作

[ヘルプ]ボタン: この画面のヘルプページを表示します。

[保存]ボタン: 設定したアカウントドメイン認証情報を保存します。

[キャンセル]ボタン: 選択した認証方式をキャンセルします。

注意

- NTドメイン認証、またはAD認証へ認証方式を変更した後は、有効にした認証設定画面で、サーバ情報を入力し、[保存]ボタンをクリックしてください。既にサーバ情報が入力されている場合でも、再度[保存]ボタンをクリックし、エラーが表示されないことを確認してください。
- Windows Server 2003 の Active Directory サーバ にて NTドメイン認証や AD 認証を実施している環境では、Active Directory 側でユーザのパスワードを変更した後も変更前のパスワードで認証が成功してしまう場合があります。これは Windows Server 2003 Service Pack 1 の NTLM ネットワーク認証動作の仕様になり、パスワード変更後も設定された一定の有効期間内では変更前のパスワードも使用できるようになっています。

Windows Server 2003 Service Pack 1 の NTLM ネットワーク認証動作に関しては、以下のマイクロソフトのリンク先を参照してください。

<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;ja;906305>

マイクロソフトのリンク先やその内部の構成等は予告なく変更される場合がございます。その場合は、マイクロソフト社サイトのトップページから以下のキーワードで検索し、情報を探し出してください。

- ・NTLM ネットワーク認証
- ・Windows Server 2003 Service Pack 1
- ・OldPasswordAllowedPeriod

除外アカウントを設定する

NTドメイン認証や Active Directory 認証を選択した場合に、その認証方式にアカウント認証を依存しないアカウントを「除外アカウント」として指定することができます。

常にローカル認証： どの認証方式を有効にしても、このリスト内に表示されているアカウントはローカル認証をします。「ローカルアカウントリスト」へアカウントを移動させる場合は、移動させたいアカウントを選択し、[>>] ボタンをクリックします。

ローカルアカウントリスト： 本装置に登録されたアカウントは、まずこのリスト内に表示されます。「常にローカル認証」リストへアカウントを移動させる場合は、移動させたいアカウントを選択し、[<<] ボタンをクリックします。

注意

admin： デフォルトでは「常にローカル認証」リストに入っています。しかし、admin アカウントは認証方式にかかわらず常にローカル認証をするので、移動はできません。

guest： デフォルトでは「ローカルアカウントリスト」に入っています。「常にローカル認証」リストへの移動は可能です。

2 - 2 . Active Directory 認証機能

Active Directory 認証を有効にすることによって、Active Directory でアカウントの追加やパスワードの一括管理をすることができます。本装置がサポートする Active Directory は Windows 2000 Server、Windows Server 2003 です。

具体的な設定例に関しましては本マニュアルの「第3章 Active Directory 認証設定の例」をご覧ください。

2 - 2 - 1 . Active Directory 認証

The screenshot shows the 'Active Directory 認証' (Active Directory Authentication) configuration page in the STORMATE web interface. The page has a light green header with the STORMATE logo and navigation tabs for 'システム', 'ステータス', '共有設定', and 'ユーティリティ'. A left sidebar contains navigation links for 'ドメイン認証設定', '認証選択', 'NTドメイン認証', 'AD認証', '共有設定', 'グループ設定', 'アカウント設定', '共有フォルダ', 'GUEST設定', and '共有設定リスト'. The main content area is yellow and displays the 'Active Directory 認証' configuration. At the top, it shows the device name '装置名:scXXXXXX' and the status 'Active Directory 認証の状態:有効'. Below this is a form with several input fields: 'Active Directory サーバ:', 'ドメイン管理者アカウント名:', 'パスワード:', and '再入力:'. There is also a 'グループマッピング:' section with a '参照と編集' button. Two checkboxes are present: 'アクセス時ユーザを自動追加する' (checked) and '同期対象OUに所属していないユーザは自動追加しない' (checked). At the bottom of the form are buttons for 'クリア', '保存', 'ログの参照', and 'ヘルプ'.

Active Directory の情報を入力し設定する

Active Directory 認証の状態:

認証選択画面で、認証方式を AD 認証にした場合、「有効」表示になります。AD 認証にしていない場合は「無効」表示になります。「無効」表示であったとしても、この画面の設定を行うことは可能です。

Active Directory サーバ:

Active Directory の完全修飾ドメイン名 (FQDN) を入力します。IP アドレスは使用できません。例えば、Active Directory のホスト名が“machine”で、ドメイン名が“stormate.co.jp”の場合、入力すべき FQDN は以下のとおりになります。

machine.stormate.co.jp

ドメイン管理者アカウント:

Active Directory の管理者権限を持つアカウントを入力します。

ポイント

- ドメイン管理者アカウントは、ドメイン管理者アカウントの「フルネーム」を入力する必要があります。
- ドメイン管理者アカウントは、Active Directory の「Users」コンテナに所属している必要があります。

パスワード/再入力:

ドメイン管理者アカウントのパスワードを入力します。

アクセス時に自動追加する:

本装置にアクセスした Active Directory のアカウントが、本装置に登録されていない場合、そのアカウントを自動的に追加します。

同期対象 OU に所属していないユーザは追加しない:

マッピングテーブルで指定されている OU に所属している Active Directory アカウントのみ自動追加されるアカウント対象となります。それ以外の OU に所属している Active Directory アカウントは装置に自動追加されません。

ポイント

- 「同期対象 OU に所属していないユーザは追加しない」のチェックがない場合は、Active Directory に登録されている全てのアカウントが対象となり、マッピングテーブルで指定されていない OU に所属している Active Directory アカウントは everyone グループのみに追加されます。
- 「同期対象 OU に所属していないユーザは追加しない」を有効にする為には、「アクセス時ユーザを自動追加する」も有効にする必要があります。よって、「アクセス時ユーザを自動追加する」が無効な場合は「同期対象 OU に所属していないユーザは追加しない」も無効になります。

ボタン操作

[クリア]ボタン:	入力した設定を全てクリア表示にします。
[保存]ボタン:	設定した Active Directory 情報を保存します。
[参照と編集]ボタン:	クリックすると「グループマッピング」画面に移動します。
[ログの参照]ボタン:	Active Directory 認証のログを表示します。
[ヘルプ]ボタン:	この画面のヘルプページを表示します。

ポイント

- 正しく Active Directory 情報を入力したにもかかわらず、「Active Directory ドメインへの接続に失敗しました。」エラーが表示される場合があります。本装置と Active Directory サーバとの時刻にずれが無いか確認してください。Active Directory ではアカウント認証に Kerberos(ケルベロス)と呼ばれるプロトコルを採用しており、Kerberos ポリシーである「コンピュータの時計の同期の最長トレランス」が設定されています。デフォルトでは 5 分と設定されていますので、この場合、本装置と Active Directory サーバとの時刻のずれを 5 分以内にする必要があります。

Kerberos ポリシーに関しては以下のマイクロソフトのリンク先を参照してください。

<http://www.microsoft.com/japan/technet/security/topics/issues/w2kccadm/w2kadm09.asp>

マイクロソフトのリンク先やその内部の構成等は予告なく変更される場合がございます。その場合は、マイクロソフト社サイトのトップページから以下のキーワードで検索し、情報を探し出してください。

- ・コンピュータの時計の同期の最長トレランス
 - ・アカウントポリシー
 - ・Kerberos ポリシー
- 「アクセス時ユーザを自動追加する」を有効にしても、アカウントを自動追加できない場合があります。これは Active Directory 側で設定されている LDAP ポリシーにて、定義されている "MaxPageSize" の値 (デフォルトは 1000) 以上のアカウントが Active Directory ドメインに登録されているためである可能性があります。以下のマイクロソフトのリンク先を参照し、LDAP ポリシーの設定変更を行ってください。

<http://support.microsoft.com/kb/315071/ja>

マイクロソフトのリンク先やその内部の構成等は予告なく変更される場合がございます。その場合は、マイクロソフト社サイトのトップページから以下のキーワードで検索し、情報を探し出してください。

- ・MaxPageSize
- ・LDAP ポリシー
- ・Ntdsutil.exe

2 - 2 - 2 . グループマッピング

ActiveDirectory 認証画面で[参照と編集]ボタンをクリックすると表示されます。

STORMATE システム ステータス 共有設定 ユーティリティ

グループマッピング

装置名:SCXXXXXX

グループマッピング一覧

ローカルグループ	Active Directory 組織単位(OU)

全て選択 ただちに同期 編集

Active Directory との同期を定期的実施する

開始時刻: 12 : 0 am

同期間隔: 8 時間

保存 ログの参照 ヘルプ 戻る

アカウント選択

本装置に登録可能な最大アカウント数は255です。Active Directory と同期してアカウントを取得後、これを超える場合は自動的にアカウント追加されません。アカウントを選択してください。

アカウント選択

Active Directory との同期設定

同期

Active Directory のアカウント情報を取得し、作成したグループマッピングテーブルと照らし合わせて、Active Directory 側の変更内容を本装置のローカルグループに反映させることを言います。

グループマッピング一覧:

ローカルグループをどの OU と同期しているか(あるいは同期させようとしているか)を表すグループマッピングリスト(マッピングテーブル)を表示します。

ローカルグループ:

グループマッピングリストに指定したグループ名が表示されます。

Active Directory 組織単位(OU):

グループマッピングに指定した OU 名と、その OU の全サブ OU を「グループマッピング対象に含めるか含めないか」が表示されます。

Active Directory との同期を定期的に行う:

定期的な同期を行いたい場合はチェックします。

開始時刻:

Active Directory との定期的な同期を開始する時刻を設定します。

時間間隔:

「開始時刻」から次に同期するまでの時間間隔を設定します。

ポイント

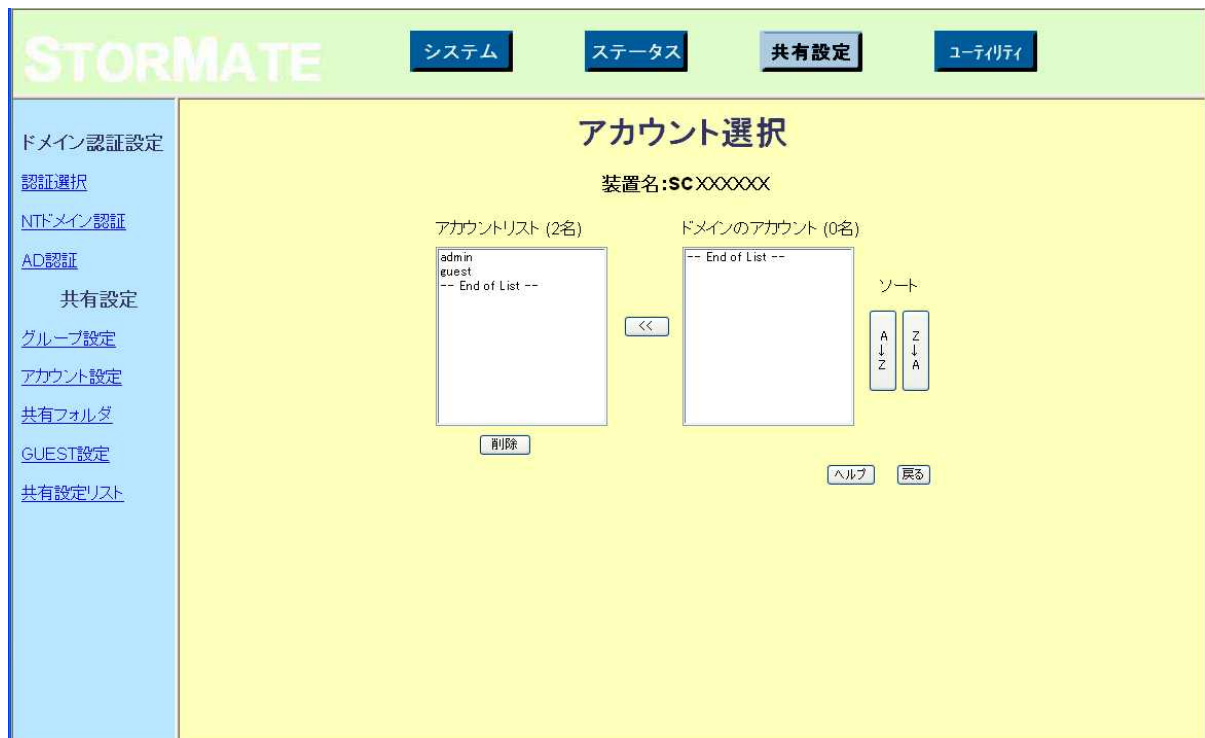
- Active Directory との同期を定期的に行う場合、グループマッピングテーブルの全リストの同期を実行します。

ボタン操作

[全て選択]ボタン:	[ただちに同期]ボタンをクリックして Active Directory と同期する際に、このボタンをクリックすることでグループマッピング一覧にある全リストにチェックを付けることができます。
[ただちに同期]ボタン:	Active Directory との同期を行います。
[編集]ボタン:	グループマッピング編集画面に移動します。
[保存]ボタン:	「Active Directory との同期を定期的に行う」設定を保存します。
[ログの参照]ボタン:	Active Directory 認証のログを表示します。
[ヘルプ]ボタン:	この画面のヘルプページを表示します。
[戻る]ボタン:	アカウントドメイン認証画面に戻ります。
[アカウント選択]ボタン:	アカウント選択画面に移動します。AD 認証が有効でない場合は、ボタンがグレーになっています。また、[ただちに同期]ボタンをクリックしてアカウントを取得後に本装置のアカウント数が 255 名を超えた場合は、自動的にアカウント選択画面に切り替わります。

ポイント

- AD 認証設定では、Active Directory のアカウントが本装置に登録された後、そのアカウントのパスワードは保存されていません(本装置にパスワードは設定されません)。AD 認証を無効にしてローカル認証する場合は、各アカウントに対してパスワードを設定する必要があります。
- 日本語(2 バイト文字等)Active Directory 組織単位(OU)からのマッピングも可能です。ただし、Active Directory から日本語(2 バイト文字等)のアカウントは取得しません。
- 制限文字(" / ¥ [] : ; | . , + * ? < > ' `)を使用したアカウントは取得されません。
- '-' (ハイフン)や'#'(シャープ)から始まるアカウントは取得されません。
- Active Directory からアカウントを削除しても、本装置のアカウントリストからは削除されません。削除したい場合は、アカウント設定画面から削除してください。
- AD 認証設定時に新規にアカウントを自動的に追加する場合には、Active Directory 側にアカウントを追加してください。
- Active Directory 側でアカウントが無効である場合、グループマッピングで指定されていればマッピングされますが、Active Directory 認証にて本装置にアクセスできません。
- guest アカウントはデフォルトで存在していますが、AD 認証では他のアカウントと同様の扱いです。



アカウントリスト: 本装置に登録されているアカウント。

ドメインのアカウント: 本装置に登録可能なActive Directoryから取得したアカウント。

ボタン操作

[削除]ボタン: 「アカウントリスト」内から選択したアカウントを本装置から削除します。しかし「ドメインのアカウント」内のアカウントを選択しても削除できません。

[ソート]ボタン: 「ドメインのアカウント」内をアルファベット順にソートして整理できます。「アカウントリスト」内はソートできません。

[ヘルプ]ボタン: この画面のヘルプページを表示します。

[戻る]ボタン: グループマッピング画面に戻ります。

ポイント

- 本装置に既に登録されているアカウントの合計が 255 に達している場合はアカウントの追加は行われませんが、既に登録されているアカウントに対して Active Directory 側で所属 OU などの変更内容を反映します。
- Active Directory との同期を行う際、Active Directory ドメインに登録しているアカウントが 1000 以上あるにもかかわらず、ドメインのアカウントリストに 1000 までしか表示されない場合があります。これは Active Directory 側で設定されている LDAP ポリシーにて、"MaxPageSize"の値が 1000 に定義されているためです。以下のマイクロソフトのリンク先を参照して、LDAP ポリシーの設定変更を行ってください。

<http://support.microsoft.com/kb/315071/ja>

マイクロソフトのリンク先やその内部の構成等は予告なく変更される場合がございます。その場合は、マイクロソフト社サイトのトップページから以下のキーワードで検索し、情報を探し出してください。

- MaxPageSize
 - LDAP ポリシー
 - Ntdsutil.exe
- 「ドメインのアカウント」欄に表示されるドメインのアカウントは、Web ブラウザの入力部分を下記のように変更後の「最大ドメインアカウント数」画面で変更できます。

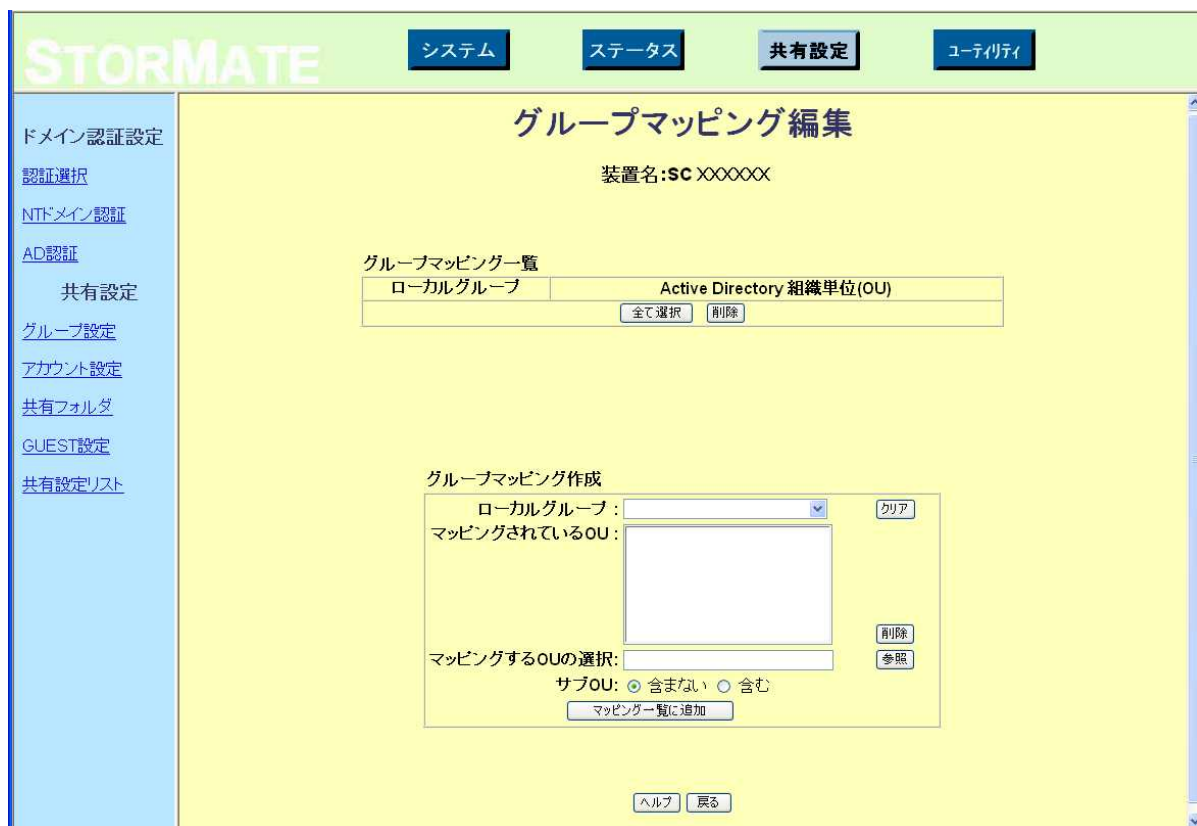
http://<StarMateのIPアドレス>/Management/domain_users.cgi



「ドメインのアカウント」に表示できる最大ドメインアカウント数は 10000 で、その値がデフォルトですが、V2.9R24 へのアップグレード後は以前のバージョンの値を継承します。

2 - 2 - 3 . グループマッピング編集

グループマッピング画面で、[編集]ボタンをクリックすると表示されます。Active Directory と同期するためにはこの画面での設定が必要になります。



グループマッピング一覧:

ローカルグループをどの OU と同期させるか、グループマッピングの一覧を表示します。

ローカルグループ:

グループマッピングリストに指定したグループ名が表示されます。

Active Directory 組織単位(OU):

グループマッピングに指定した OU 名と、その OU の全サブ OU を「グループマッピング対象に含めるか含めないか」が表示されます。

グループマッピングテーブルの作成

ローカルグループ: マッピングさせるグループを本装置に登録されているグループから選択します。ただし、administrator グループと everyone グループは選択できません。

マッピングされている OU: 「ローカルグループ」で選択したグループにマッピングされている OU の一覧が表示されます。

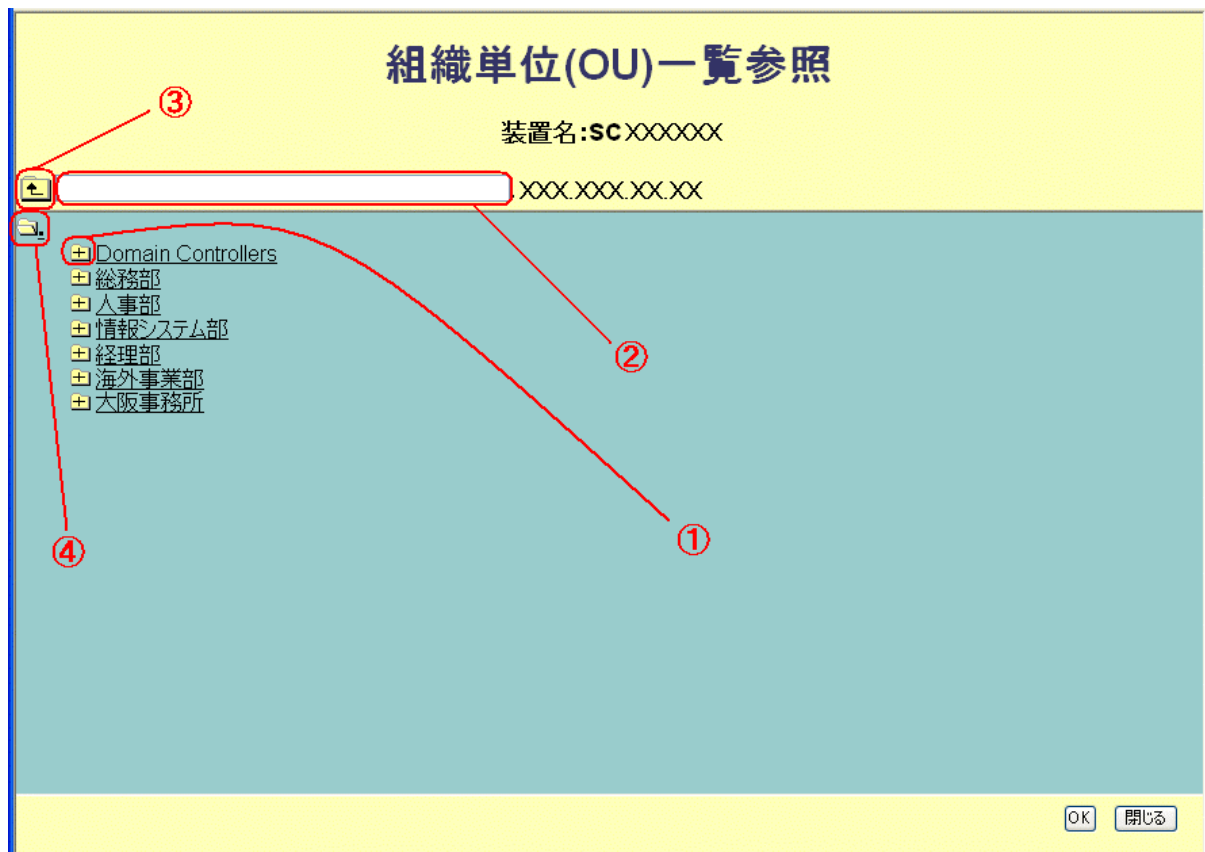
マッピングする OU の選択: [参照]ボタンをクリックし、組織単位(OU)一覧参照画面で選択した OU が表示されます。

サブ OU: 「マッピングする OU の選択」で指定した OU の全サブ OU をマッピング対象に含めるか含めないかを選択しチェックします。

- 「含まない」 ---- 指定した OU 直下のみ
- 「含む」 ---- 指定した OU 以下、全サブ OU を含む

ボタン操作

- [全て選択]ボタン: グループマッピングリストから削除するとき、このボタンをクリックすると全リストにチェックを付けることができます。
- [削除]ボタン: グループマッピングリスト内でチェックが付いているリストを削除します。
- [マッピング一覧に追加する]ボタン: 「マッピングする OU の選択」で選択した OU を「ローカルグループ」で選択したグループにマッピングするため、グループマッピングリスト一覧に追加します
- [クリア]ボタン: 「マッピングする OU の選択」内の内容をクリアし、「サブ OU」設定は「含まない」にチェックします。
- [参照]ボタン: Active Directory の OU 一覧参照画面が表示されます。



- リストの中から、マッピングさせる OU を選択します。画面の操作で ~ は以下のように動作します。
- : クリックするとその OU の直下が表示されます。
 - : 現在画面に表示されている OU 名が表示されます。ここに直接入力はできません。
 - : クリックすると1つ上の OU が表示されます。
 - : クリックすると、どの OU にいても、ルート(最初の画面)に戻ります。

注意

- 「組織単位(OU)一覧参照」ページ上部にあるフィールド()と「マッピングするOUの選択」フィールドでは、指定したOU名にピリオドや¥マーク(バックスラッシュ)を使用している場合、ピリオド「.」を「¥.」、¥マーク「¥」を「¥¥」として表示します。

ボタン操作

[OK]ボタン: マッピングするOUが決定しましたら、このボタンをクリックします。組織単位(OU)一覧参照のウィンドウが自動的に閉じてグループマッピング編集画面に戻り、「マッピングするOUの選択」に選択したOUが表示された状態になります。

[閉じる]ボタン: 組織単位(OU)一覧参照画面を閉じます。

制限事項

- 選択できるOU全体の長さは255バイトまでになります。

2 - 3 . RAID ブザーコントロール機能

RAID ブザー鳴動を操作することができます。WebSetup ユーティリティにログイン後、「ユーティリティ」画面で設定します。

曜日	時刻
<input type="checkbox"/> 平日	12:00 am
<input type="checkbox"/> 土曜日	12:00 am
<input type="checkbox"/> 日曜日	12:00 am

使用中に RAID ブザーが鳴動した場合の設定

継続して鳴らす: 事前にこの設定すると、RAID ブザーが鳴動した場合、障害の発生したハードディスクの鍵を解除するまで継続して鳴動させます。

1 分後に止める: 事前にこの設定すると、RAID ブザーが鳴動した場合、鳴動し始めてから 1 分後に自

動的に鳴動が止まります。

ボタン操作

[ただちにブザーを止める]ボタン： RAID ブザーが鳴動した場合、このボタンをクリックするとただちに鳴動が止まります。

注意

- 本機能はRAID ファームウェアバージョンがV1.00b01以上の装置で使用できます。V1.00b01未満のバージョンでは機能しませんので、ご使用装置の RAID ファームウェアバージョンをご確認ください。確認方法は、装置の電源投入直後に RAID ファームウェアバージョンが前面パネル LCD に下記のように表示されます。

Welcome RAID V1.00b04

または、WebSetup ユーティリティにログイン後、Web ブラウザのアドレス入力部分を以下のように変更して、「現在の F/W バージョン」で確認できます。

http://<StorMateのIPアドレス>/Management/raid_upg.cgi

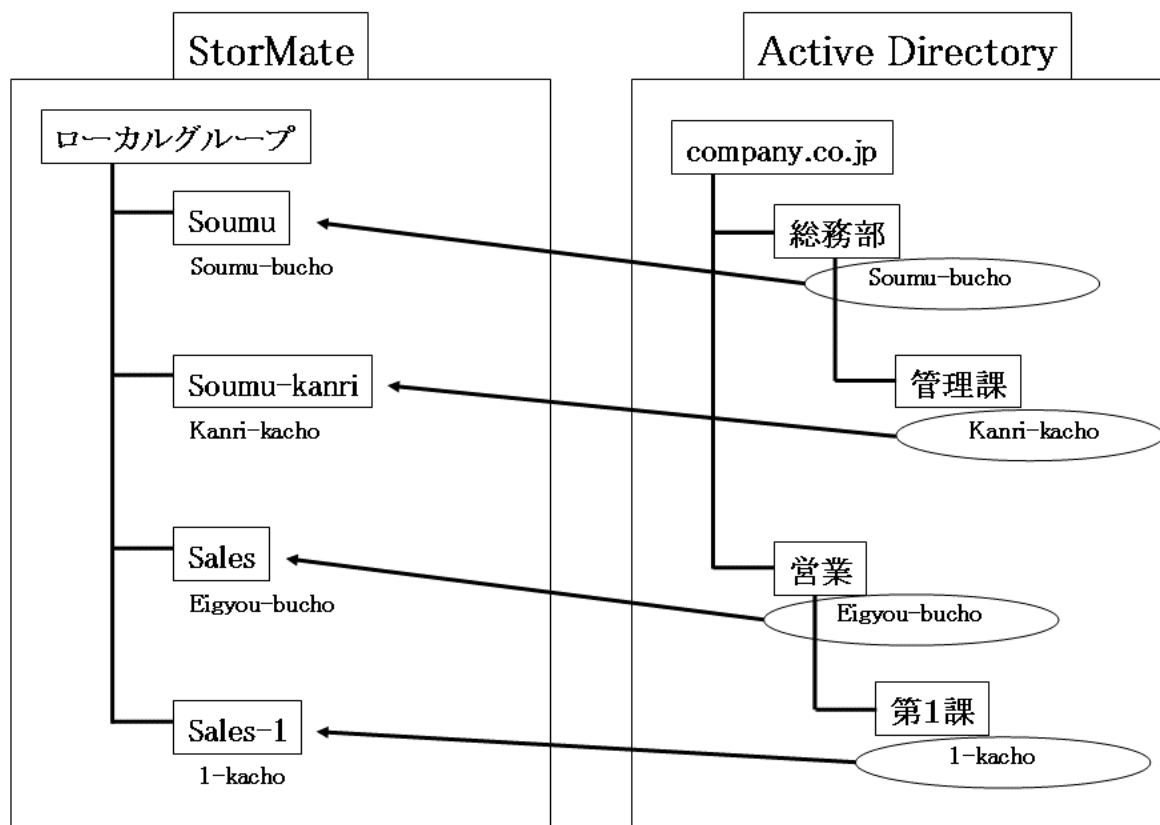
第3章 Active Directory 認証設定の例

ここでは、Active Directory 認証のグループマッピング設定の簡単な例をいくつかご紹介します。

3 - 1. 1対1マッピング

1つローカルグループに対して1つの OU をマッピングさせる設定をします。<図 1>

<図 1> StorMate と Active Directory の構成図 (1)



手順は以下の通りです。

手順 1: 本装置にローカルグループを作成します。(Soumu、Soumu-kanri など)

手順 2: 以下のようなマッピングテーブルを作成します。(補足マニュアル P.13 参照)

ローカルグループ	組織単位 (OU)	
Soumu	総務部	サブ OU を含まない
Soumu-kanri	総務部・管理課	サブ OU を含む
Sales	営業	サブ OU を含まない
Sales-1	営業・1課	サブ OU を含む

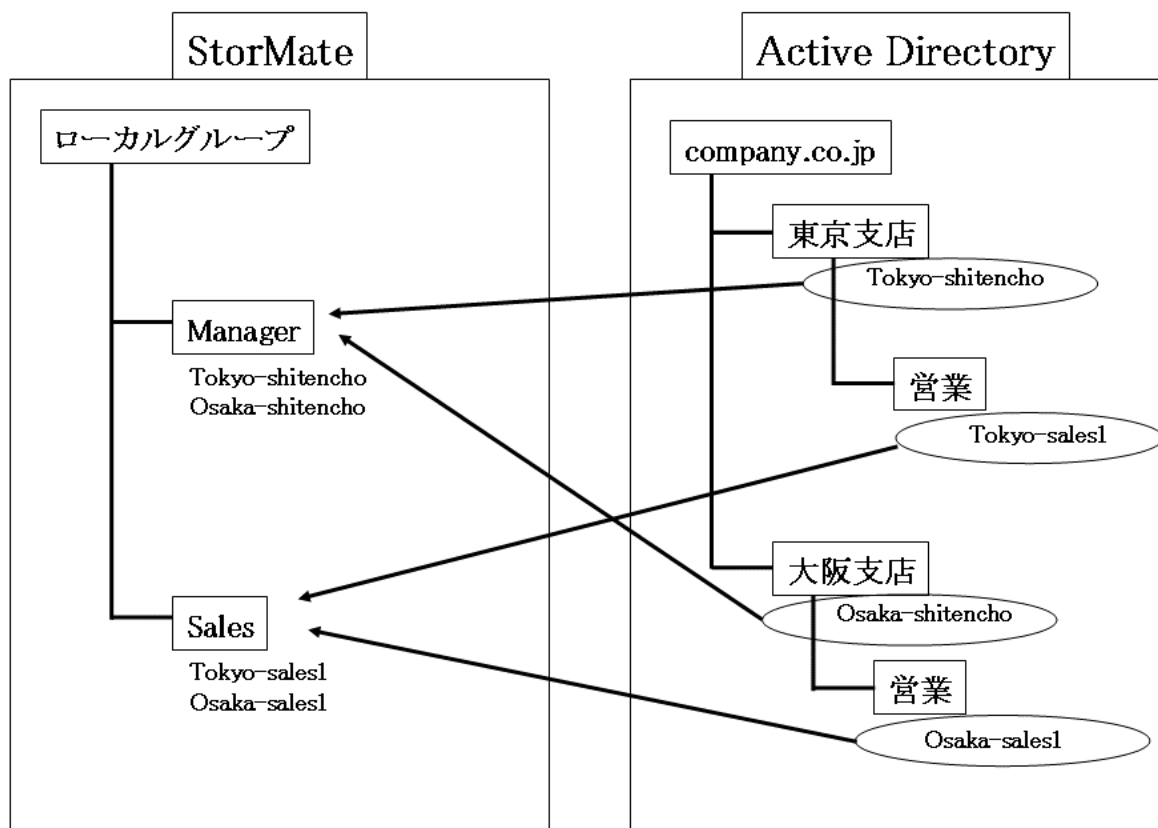
手順 3: ローカルグループと OU を同期します。(補足マニュアル P.10 参照)

以上の手順で、Active Directory 側の設定が本装置のグループに反映され、各 OU 内のアカウントは、それぞれ対応するローカルグループ内に取り込まれます。

3 - 2.1 対多マッピング

1 つローカルグループに対して複数の OU をマッピングさせる設定をします。<図 2>

<図 2> StorMate と Active Directory の構成図 (2)



手順は以下の通りです。

手順 1: 本装置にローカルグループを作成します。(Manager、Sales)

手順 2: 以下のようなマッピングテーブルを作成します。(補足マニュアル P.13 参照)

ローカルグループ	組織単位 (OU)	
Manager	東京支店	サブ OU を含まない
	大阪支店	サブ OU を含まない
Sales	東京支店・営業	サブ OU を含む
	大阪支店・営業	サブ OU を含む

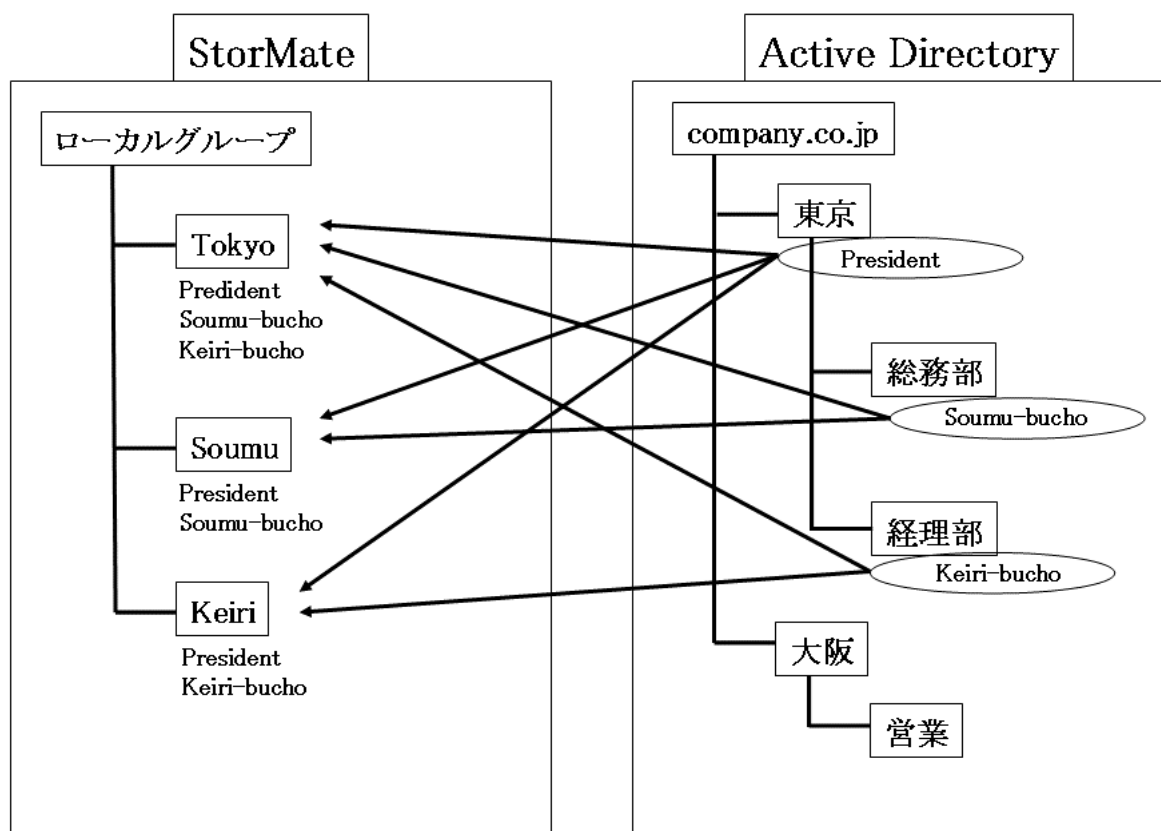
手順 3: ローカルグループと OU を同期します。(補足マニュアル P.10 参照)

以上の手順で、Active Directory 側の設定が本装置のグループに反映され、各 OU 内のアカウントは、それぞれ対応するローカルグループ内に取り込まれます。

3 - 3 . 多対多マッピング

複数のローカルグループに対して複数の OU をマッピングさせる設定をします。 <図 3>

<図 3> StorMate と Active Directory の構成図 (3)



手順は以下の通りです。

手順 1: 本装置にローカルグループを作成します。(Tokyo、Soumu など)

手順 2: 以下のようなマッピングテーブルを作成します。(補足マニュアル P.13 参照)

ローカルグループ	組織単位 (OU)	
Tokyo	東京	サブ OU を含む
Soumu	東京	サブ OU を含まない
	東京・総務部	サブ OU を含む
Keiri	東京	サブ OU を含まない
	東京・経理部	サブ OU を含む

手順 3: ローカルグループと OU を同期します。(補足マニュアル P.10 参照)

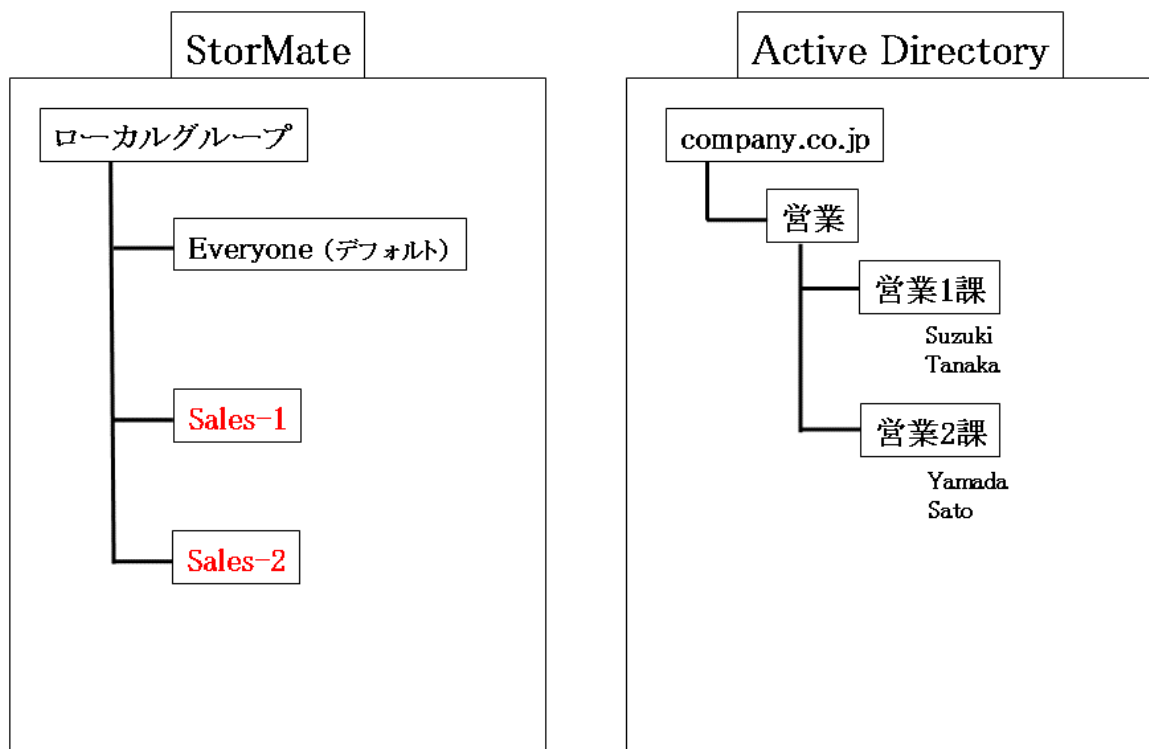
以上の手順で、Active Directory 側の設定が本装置のグループに反映され、各 OU 内のアカウントは、それぞれ対応するローカルグループ内に取り込まれます。

3 - 4 . マッピングテーブルが変更された場合

ここでは、マッピングテーブルを設定し同期を行った後、Active Directory 側でアカウントの変更や移動があっても、同期を行うことで本装置に反映させることができるという簡単な例を紹介します。

まず、Active Directory 側の設定を反映させるため、本装置のローカルグループ「Sales-1」と「Sales-2」を作成します。<図 4>

<図 4> StorMate と Active Directory の構成図 (4)



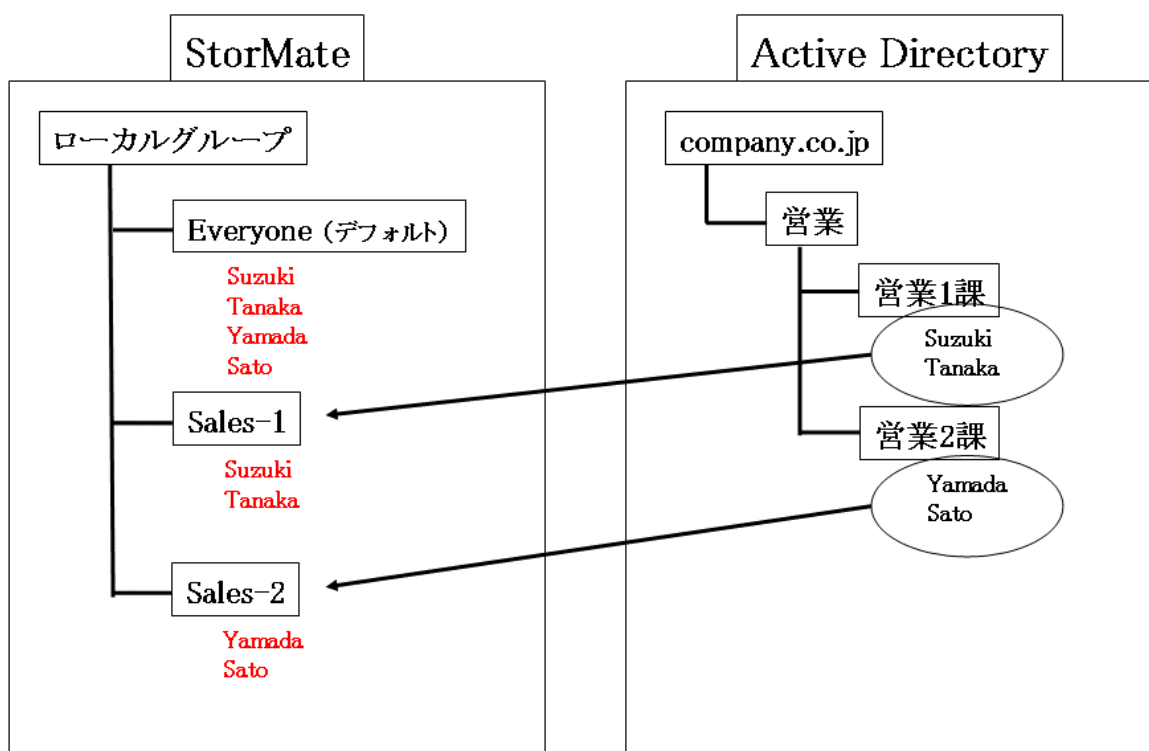
説明のため図には Everyone グループも記載してあります。

次に以下のようなマッピングテーブルを作成します。

ローカルグループ	組織単位 (OU)	
Sales-1	営業 . 営業 1 課	サブ OU を含まない
Sales-2	営業 . 営業 2 課	サブ OU を含まない

そしてマッピングテーブルに従って同期を行うと、<図 5>のように、Active Directory の内容がローカルグループに反映されます。

<図 5> StorMate と Active Directory の構成図 (5)

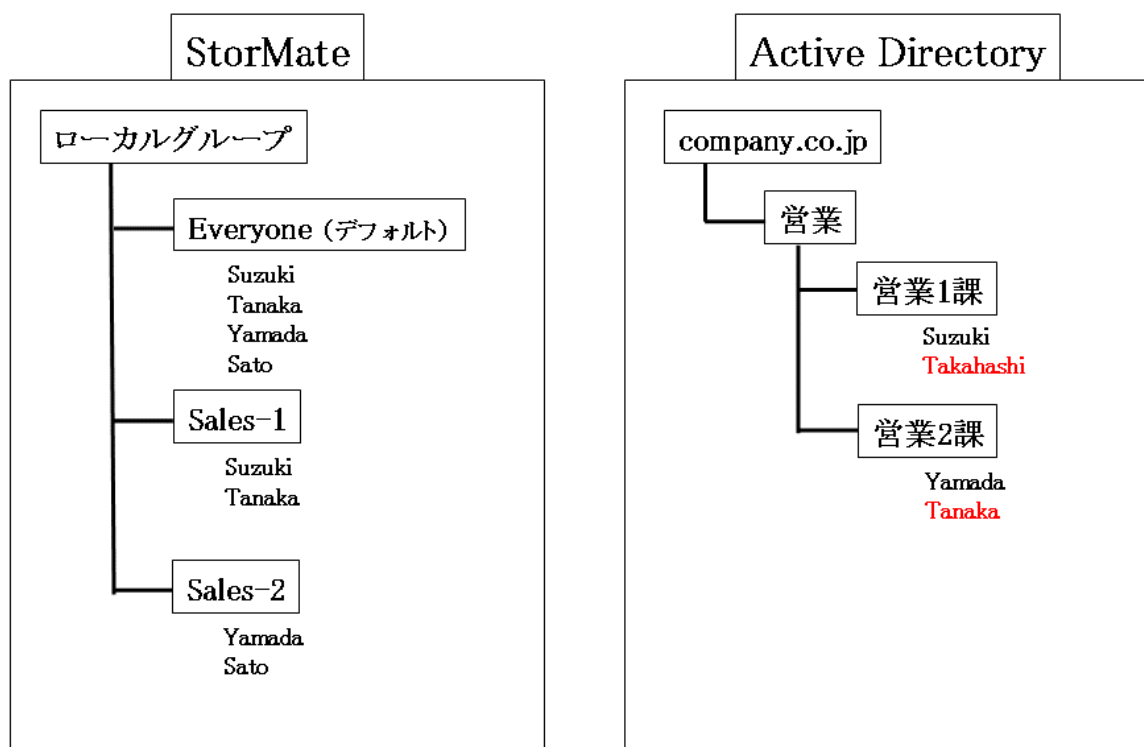


<図 5>の状態では本装置を運用中に Active Directory の構成が以下のように変更されたとします。

- 新たに「Takahashi」アカウントが「営業 . 営業 1 課」OU に追加。
- 「Tanaka」アカウントが「営業 . 営業 1 課」OU から「営業 . 営業 2 課」OU に移動。
- 「Sato」アカウントが「営業 . 営業 2 課」OU から削除。(Active Directory そのものから削除。)

この状況を図で表すと<図 6>のようになります。

<図 6> StorMate と Active Directory の構成図 (6)



この時、Active Directory の変更を反映させるため、前回使用したマッピングテーブル

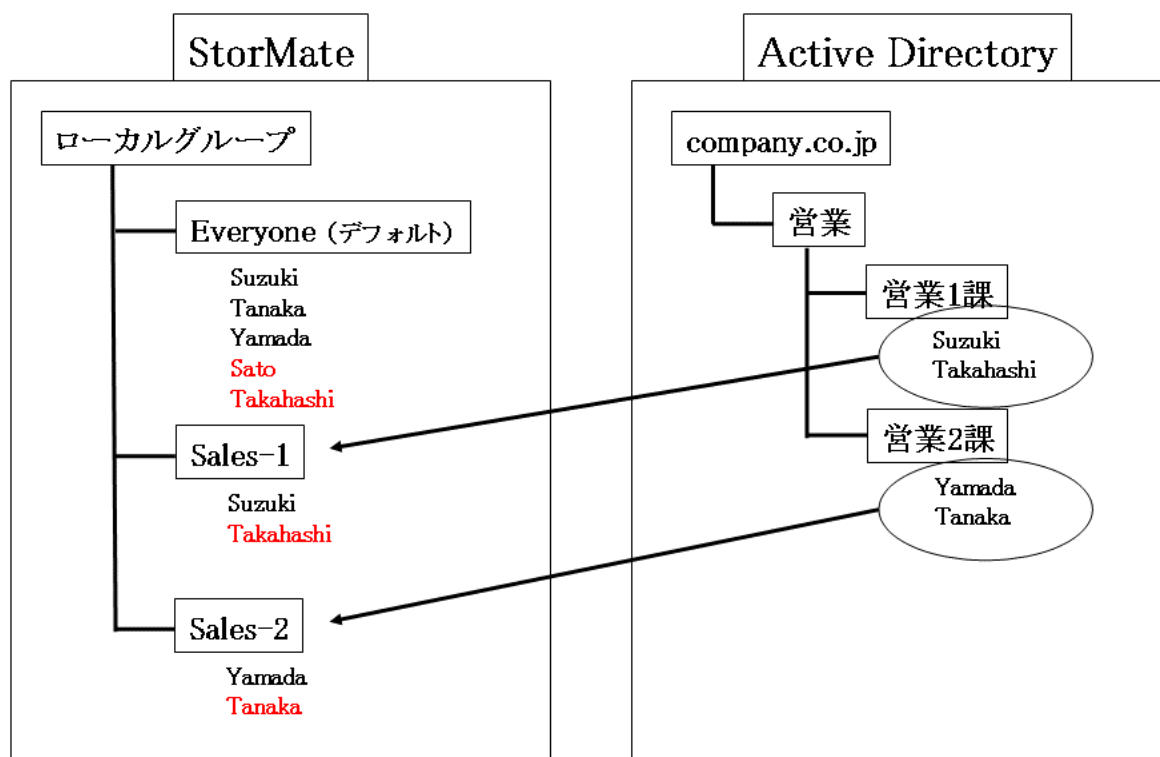
ローカルグループ	組織単位 (OU)	
Sales-1	営業 . 営業 1 課	サブ OU を含まない
Sales-2	営業 . 営業 2 課	サブ OU を含まない

を使用して同期を行います。

すると同期後は<図 7>のように StorMate 側でも自動的に以下のことが反映されます。

- 「Takahashi」アカウントが「Sales-1」に追加
当然、Everyone グループにも追加されます。
- 「Tanaka」アカウントは「Sales-1」から「Sales-2」に移動
- 「Sato」アカウントは「Sales-2」グループから削除。
ただし、「Sato」アカウントは StorMate 側では完全に削除せず、デフォルトの Everyone グループに所属したままになります。

<図 7> StorMate と Active Directory の構成図 (7)



以上のように、Active Directory 側で変更があっても、マッピングテーブルに従った同期を行うことで、自動的にその状態を本装置側に反映させることができます。

以上